

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：株式会社青木染工場における
ガス焚き高効率ボイラの導入による CO2 排出削減
事業

排出削減事業者名：株式会社青木染工場

排出削減事業共同実施者名：ES カーボンクレジット合同会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社青木染工場
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	株式会社青木染工場
住所	岐阜県岐阜市柳津町下佐波 1-61 番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	ES カーボンクレジット合同会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

株式会社青木染工場におけるガス焚き高効率ボイラの導入による CO2 排出削減事業

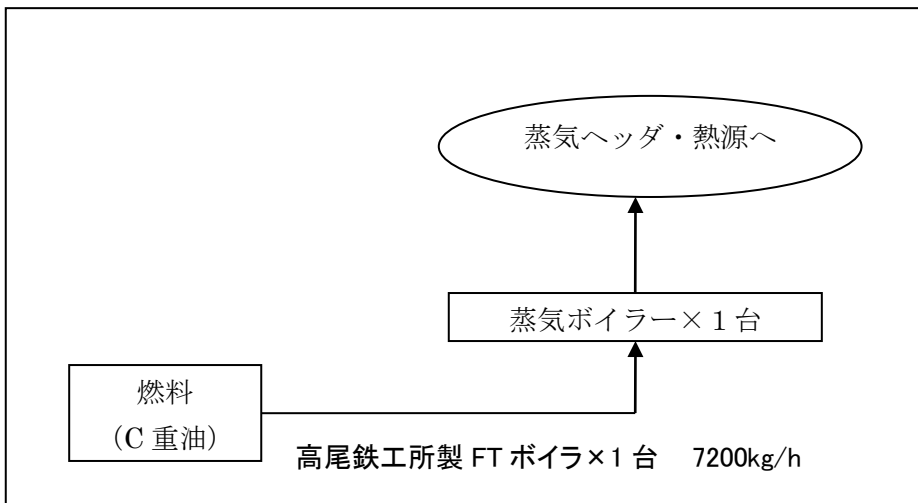
2.2 排出削減事業の目的

C 重油ボイラーから都市ガスボイラーへと設備更新することにより、高効率化を実現し、CO2 削減を図ることを目的としている。

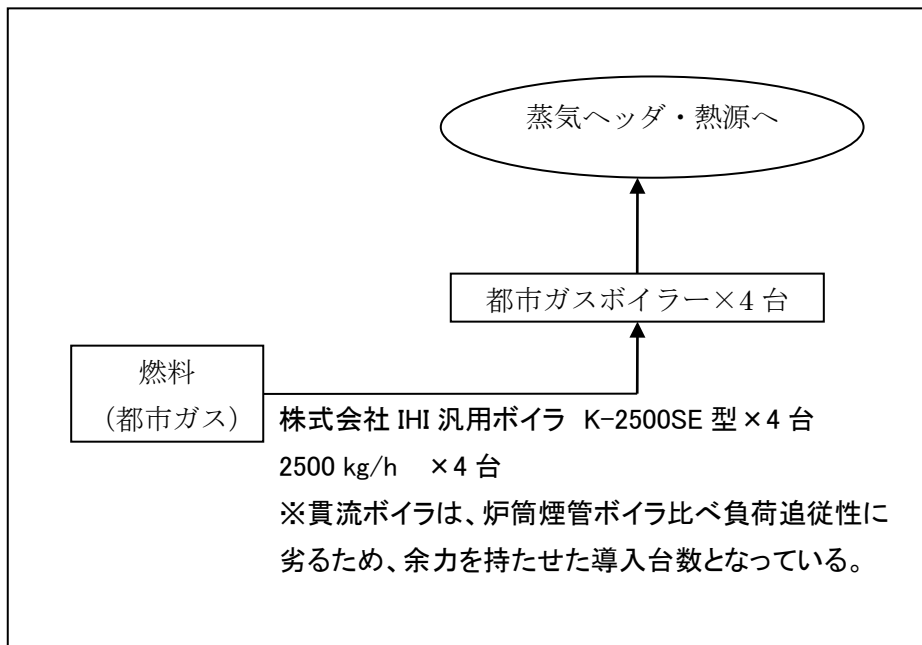
2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

- ①C 重油ボイラーから都市ガスボイラーへの変更による排出係数の低減
- ②高効率ボイラーへの更新によるエネルギー消費量の低減

(排出削減事業実施前の設備概要)



(排出削減事業実施後の設備概要)



2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

(個別項目の欄において具体的に記載すること。)

無し。

(備考)設備導入又は更新以外の手法・技術等による排出削減方法について記入する。

例) 間欠運転の実施

無い。

注) 間欠運転を実施した場合は、当該方式の導入に関わる設備、運転体制について記載のこと。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。

2012 年 1 月 6 日

3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2018 年 1 月 1 日 ～ 2019 年 12 月 31 日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

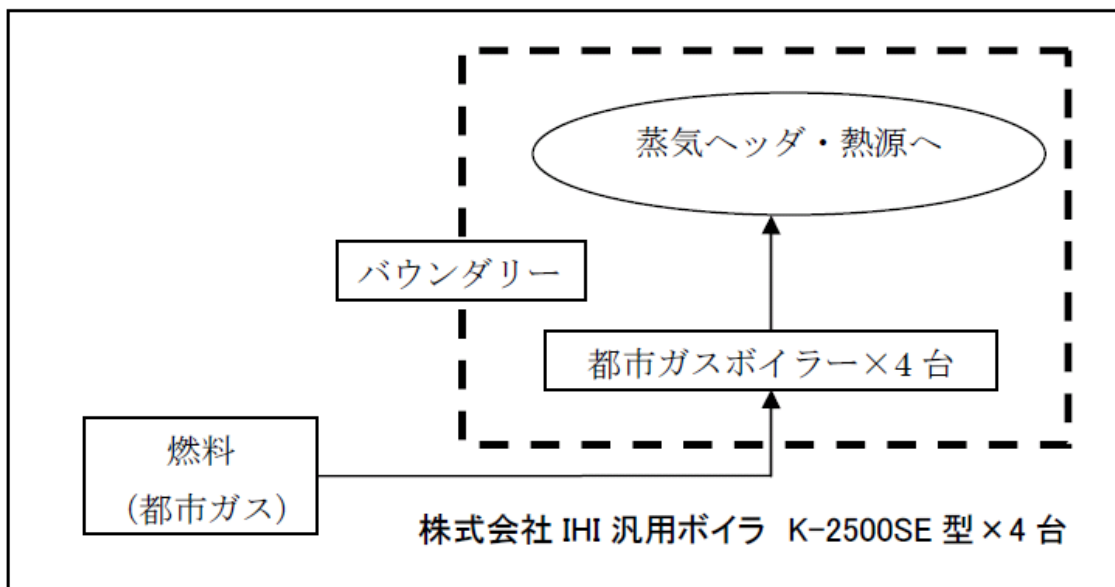
4.2.1 活動量・原単位

活動量・原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

都市ガスボイラーに更新するボイラー及びボイラーから蒸気の供給を受ける設備



5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある 場合、) 変更理由
ε_{PJ}	事業実施後のボイラ効率	%	87.8	カタログ値(高位ベース)	変更なし。
ε_{BL}	事業実施前のボイラ効率	%	86.8	カタログ値(高位ベース)	変更なし。
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前の燃料の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2017年度～ 2019年度：0.0741	デフォルト値 (C重油)	変更なし。
$CF_{fuel,PJ}$	事業実施後の燃料の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2017年度～ 2019年度：0.0513	J-クレジット制度デフォルト値 (都市ガス)	変更なし。
$F_{fuel,PJ}$	事業実施後燃料の使用量	千 Nm ³ /年	2017年度：211.1 2018年度：906.2 2019年度：608.1	都市ガス供給会社からの請求書より Nm ³ に変換して算出 (×0.957)	変更なし。
$HV_{fuel,PJ}$	事業実施後燃料の単位発熱量	GJ/ 千 Nm ³	2017年度：44.5 2018年度：43.6 2019年度：43.6	J-クレジット制度デフォルト値 (都市ガス)	変更なし。

6 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

6.1 事業実施後排出量

(都市ガス使用)

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	211.1	44.5	0.0513	481.9
2018 年度	906.2	43.6	0.0513	2,026.8
2019 年度	608.1	43.6	0.0513	1,360.0
単位	千 Nm3	GJ/千 m3N	tCO2/GJ	tCO2
EM _{PJ}				3,868.7

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	9,501.7	—	0.0741	704.1
2018 年度	39,964.1	—	0.0741	2,961.3
2019 年度	26,816.5	—	0.0741	1,987.1
単位	GJ/年		tCO2/GJ	tCO2
EM _{BL}				5,652.5

6.3 リークージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	0			0
2018 年度	0			0
2019 年度	0			0
LE				0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	5,652.5
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	3,868.7
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	1,783

7 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

	原油換算 (kl)		
	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
C重油	2,026.2	2,003.1	23.1

省エネルギー量 (原油換算) = 23.1 kl

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律 (省エネ法) 施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013年4月1日 ~ 2017年11月30日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)